

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：14303

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22760487

研究課題名(和文) 1920年代および30年代の京都における建築活動の実態とその特徴に関する研究

研究課題名(英文) The study on architectural activities at Kyoto in 1920's and 30's

研究代表者

笠原 一人 (KASAHARA, KAZUTO)

京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・助教

研究者番号：80303931

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：1920年代から1930年代までのいわゆるモダニズム期に、京都において建築家や組織がどのように活動し、どのような技術や意匠を用いて建築を設計したか、調査・考察を行った。

その結果、同時期に京都を拠点としたり、京都で教育を受けたりした建築家や技術者、施工業者、協働した他分野専門家などの活動の概要を把握することができた。京都では、東京にも劣らない早期からモダニズムの活動が繰り広げられていたこと、海外を含めた広い交友関係に裏付けられていたこと、異なる分野同士の協働など学際的な活動が見られること、また京都の伝統産業との関係が深かったことなどが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This is the historical study about architectural works at Kyoto in 1920's and 30's. As a result, I could understand the overview of activities how the architects, contractors, engineers and artist who collaborate with architects worked at Kyoto.

In Kyoto, the activities of modern movement of architecture had been taken early as same as Tokyo. The some architects of Kyoto collaborated with European or American modern architects. They also collaborate with some artist and craftsman. It means their activities are international, interdisciplinary and good relationship with traditional industries of Kyoto.

研究分野：近代建築史・建築保存論

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：京都 近代 モダニズム 日本インターナショナル建築会 本野精吾 上野伊三郎 宮崎家具店 京都高等工芸学校

1. 研究開始当初の背景

従来のモダニズム建築研究は、機能性や合理性を重視し、鉄やガラス、コンクリートを素材とし、無装飾で抽象的な形態を有するというモダニズム観を重視する傾向が強く、また研究対象は東京が中心となりがちである。地方都市での活動についての研究は増えつつあるが、まとまった研究としては不十分である。地方都市の中でも関西におけるモダニズム建築研究は比較的盛んではあるが、それらは建築家の事績や作品の研究が先行し、それぞれの都市での建築家同士の関係や連携、教育組織や建築運動、さらには伝統技術や他分野との関係などにまで踏み込んで、モダニズム期の建築活動の多様性や、その特徴を群や関係性を捉えるところまで至っていない。

京都においては、管見では、全国的に見ても早くからモダニズムの建築活動が盛んであり、また複数の建築家が連携しながら活動している一方で、そこには伝統文化の意匠や装飾、技術も生かされているなど、東京とも大阪とも異なる形で、独自の発展や広がりを見せたと言える。日本の伝統的な文化が生きる都市ならではの建築活動の様相が見られる。京都を事例としてモダニズムの建築活動を考察することは、モダニズムが忌避したはずの装飾を拒まないモダニズム建築や、伝統的意匠や技術との密接な関係など、東京とは異なるモダニズム建築の普及や伝播のあり方を見出すことになり、モダニズムの多様な実態を捉えるための新たな知見をもたらすものと考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、1920年代から1930年代までのいわゆるモダニズム期に、京都において建築家や組織がどのように活動し、どのような技術や意匠を用いて建築を設計したかについて調査し考察するものである。

京都は、従来、近代以前の伝統的な文化が現存する都市として語られてきた。しかし、実際には京都は、様々な分野で早くから近代化を進めた都市だと言える。建築についても同様で、京都では1920年代の早い時期からモダニズム建築が京都在住の建築家などによって造られてきた。しかし、そこには伝統産業の技術も生かされているなど、伝統的な文化が生きる都市ならではの様相が見られる。そこで本研究は、モダニズム期における京都の建築活動に着目し、その先進性や独自性、さらにはその広がりを明らかにしようとするものである。

3. 研究の方法

主に以下の6点に注目しながら研究を実施する。

1. 建築家の作品・活動・交友関係調査

当時京都を拠点として活躍した建築家を選び、その建築理念や作品、活動内容や交友関係について文献調査を行い、彼らの履歴や

活動、交友関係、建築作品を把握する。武田五一や本野精吾、上野伊三郎、藤井厚二、大倉三郎、香野雄吉、西山卯三、あめりか屋京都店などを対象とする。

2. 建築運動団体および営繕組織の活動調査

組織的な建築活動についての調査も行う。建築運動の活動については、日本インターナショナル建築会やデザム、白路社建築創作所、鉄扉社建築会、営繕組織については京都府営繕課と京都市営繕課を対象とし、各団体や組織のメンバーの履歴や彼らの活動、建築作品を時系列に沿って把握する。また彼らの建築理念や作品、人的交流の様子を明らかにし、京都に特有のモダニズム建築の実現や伝播のあり方を捉える。

特に日本インターナショナル建築会は海外との交流も盛んであったため、その交流関係や運動の広がりの詳細を解明するために、外国会員の出身国であるドイツ・オランダなどの資料館や公共図書館での調査も実施し、日本インターナショナル建築会との書簡や現地の雑誌等での掲載記事を入手する。

3. 施工業者の活動調査

施工業者の活動については、あめりか屋京都店やミラノ工務店、熊倉工務店、岡田工務店など、当時京都で活躍した気鋭の建築家の作品を施工した施工会社を対象とし、資料を入手し、建築家との関係やその技術の特徴を捉える。

4. 家具・内装業者の活動調査

家具・内装業者の活動については、宮崎家具や宮崎木材、高島屋などを対象とし、現存する会社が所蔵する資料を閲覧し、建築家の仕事を支えた家具業者の活動や会社組織のあり方、また伝統技術との関係を捉える。特に宮崎家具については、1930年代に武田五一や本野精吾、藤井厚二といった京都を拠点に活動した建築家が中心となって、家具の近代化を推進する研究会を設立し、展覧会を開催するなど、目立った活動が見られる。これらの活動を中心に調査を進め、伝統技術がどのように使われたかなどについても考察する。

5. 教育組織の活動

教育組織の活動については、関西で最初に建築の高等教育が行われた京都高等工芸学校や大正期に建築学科が設置された京都帝国大学などの高等教育機関の他、京都市立第一工業学校や京都市立第二工業学校、京都工学校などの中等教育機関も存在した。それらの教育システムの特徴や教員の体制などを把握し、教育のあり方や就職先などの特徴を捉える。

6. 建築以外の分野との連携活動

1920年代から30年代にかけての京都における建築活動は、管見では、前述の家具など直接建築の建設に関わる分野以外にも、美術や工芸、造園、映画、舞台、音楽など様々な分野の作家との交流や協働作業を通じて行われたと見られ、それが建築作品の意匠な

ども反映されていると考えられる。そこで、建築以外の分野との連携活動などについての把握に努め、京都独自のモダニズムの建築のあり方を浮き彫りにする。

4. 研究成果

2010年度は、1920年代から30年代にかけて京都を拠点に活躍した建築家や、建築運動団体の活動、またその団体と欧米との海外交流、海外の建築文化の受容のあり方について、文献調査や建築の見学調査を通じて把握し、当時の建築作品や建築家の活動の特性を捉えた。

文献調査については、京都を拠点として活動した建築運動団体「日本インターナショナル建築会」のメンバーであった外国会員の書簡や雑誌および新聞資料を、ロッテルダムのオランダ建築協会(NAI)やドイツのベルリン市立図書館、デンマークのコペンハーゲン中央図書館などで調査した。

見学調査については、「日本インターナショナル建築会」の外国会員の建築作品や、当時「日本インターナショナル建築会」が思想や意匠において影響を受けたとみられるドイツやオランダ、オーストリア、北欧などの建築家による建築作品を見学調査し、その特徴と影響関係の把握を行った。

2011年度は、武田五一や本野精吾、上野伊三郎、藤井厚二、大倉三郎など、1920年代から30年代に京都を拠点に活躍した建築家、日本インターナショナル建築会やデザム、白路社、鉄扉社、あめりか屋京都店といった組織や団体、また京都高等工芸学校出身の建築家や技術者の建築作品や活動について、著書や雑誌に掲載された論考や作品、一次資料の調査を行った。また、前述のような1920年代から30年代に京都を拠点に活躍した建築家や組織、団体の建築作品を見学調査し、その特徴と影響関係の把握を行った。

2012年度は、武田五一や本野精吾、上野伊三郎、藤井厚二など、1920年代から30年代に京都を拠点に活躍した建築家らと関わりのあった、他分野の組織や団体との関係や活動に焦点を当て、著書や雑誌に掲載された論考や作品、一次資料の調査を行った。特に京都の老舗、宮崎家具店と建築家との協働に注目して調査を行った。

その結果、1920年代から30年代にかけて、京都を拠点とした建築家が、家具や工芸などの建築以外の分野の作家や組織と協働し、建築にとどまらない生活空間全体のデザイン活動を展開したことが明らかになった。

2013年度は、2012年度に引き続き、武田五一や本野精吾、上野伊三郎など、1920年代から30年代に京都を拠点に活躍した建築家らと関わりのあった、他分野の組織や団体との関係や活動に焦点を当て、著書や雑誌に掲載された論考や作品、一次資料の調査を行った。

特に武田五一や本野精吾らと京都の老舗、

宮崎家具店との協働や、本野精吾や上野伊三郎らと京都の染物屋との協働による真美会の活動、また上野伊三郎や上野リチと群馬県工芸所の協働に注目して調査を行った。

その結果、1920年代から30年代にかけて、京都を拠点とした建築家が、家具や工芸などの建築以外の分野の作家や組織と協働し、建築にとどまらない生活空間全体のデザイン活動を展開したことが明らかになった。

以上のように、本研究を通じて、1920年代から30年代にかけて京都を拠点としたり、京都で教育を受けたりした建築家や技術者、施工業者、協働した他分野専門家などの活動を把握することができた。調査が不十分な点もあるが、京都では、東京にも劣らない早期からモダニズムの活動が繰り広げられていたこと、海外を含めた広い交友関係に裏付けられていたこと、異なる分野同士の協働など学際的な活動が見られること、また京都の伝統産業との関係も深いことなどが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 16 件)

1. 笠原一人「上野伊三郎と本野精吾 - その家具・工芸活動とローカリティ - 」、『シンポジウム「近代建築史の最先端」第9回近代(日本)×近代(西洋)中東欧のモダニズムとその拡がり その 』、査読無、2014年、pp.10-16
2. 笠原一人「戦前期京都における宮崎家具店と建築家の協働について」、『日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系』、査読無、第53号、2013年、pp.801-804
3. 笠原一人「『デザイン』誌にみる村野藤吾の1930年欧米旅行」、『日本建築学会大会学術講演梗概集』、査読無、建築歴史・意匠、2013年、pp.963-964
4. 笠原一人「湯浅邸 - 戦時下のパトロン湯浅邸とその住宅 - 」、『村野藤吾研究』、査読無、第3号、2013年、pp.29-44
5. 笠原一人「再読 関西近代建築 : モダンエッジの建築遺産(51) 新大阪駅」、『建築と社会』、査読無、第94巻6号、2013年、pp.29-32
6. 笠原一人「神戸市庁舎」、『歴史と神戸』、査読無、第296号、2013年、pp.24-28
7. 笠原一人「カトリック宝塚教会」、『歴史と神戸』、査読無、第300号、2013年、pp.2-6
8. 笠原一人「栗原邸にみる本野精吾のモダニズム」、『建築人』、査読無、2013年8月号、2013年、pp.4-5
9. 笠原一人「京都高等工芸学校本館」、『建築と社会』、査読無、第1081号、2012年、pp.21-24
10. 笠原一人「美野丘小学校円形校舎」、『歴史と神戸』、査読無、第292号、2012年、pp.2-6、
11. 笠原一人「関西・名作住宅入門 戦後編」、『チルチンびと』、第72号、査読無、2012年、

pp.84-89

12. 笠原一人「尼崎市庁舎」『日事連』、第 195 号、査読無、2012 年、pp.42-43

13. 笠原一人「村野藤吾：批評としての階段-旧千代田生命相互会社本社ビルの階段をめぐって-」、『ディテール』、第 587 号、査読無、2012 年、pp.181-183

14. 平井直樹・石田潤一郎・笠原一人「村野藤吾設計による『海軍将校倶楽部』の建設・移築経緯」、『日本建築学会近畿支部研究報告集』、査読無、第 51 号・計画系、2011 年、pp.889-892

15. 笠原一人「兵庫の戦後モダニズム建築第 10 回 豊岡市民会館」、『歴史と神戸』、査読無、第 285 号、2011 年、pp.40-45

16. 笠原一人「兵庫の戦後モダニズム建築第 11 回 西山記念会館」、『歴史と神戸』、査読無、第 288 号、2011 年、pp.2-6

〔学会発表〕(計 6 件)

1. 笠原一人「上野伊三郎と本野精吾 - その家具・工芸活動とローカリティ - 」、日本建築学会、2014 年 2 月 1 日、建築会館

2. 笠原一人「村野藤吾の甲南女子大学キャンパスを読み解く」、兵庫県建築士会、2014 年 1 月 11 日、甲南女子大学

3. 笠原一人「『デザイン』誌にみる村野藤吾の 1930 年欧米旅行」、日本建築学会、2013 年 9 月 1 日、北海道大学

4. 笠原一人「戦前期京都における宮崎家具店と建築家の協働について」、日本建築学会近畿支部、2013 年 6 月 16 日、大阪工業技術専門学校

5. 笠原一人「保存をめぐる評価指標の多様化 - オランダにおけるゾンネストラール・サナトリウムの修復とソンスペーク・パピリオンの再建から考える - 」、日本建築学会、2012 年 09 月 14 日 ~ 2012 年 09 月 14 日、名古屋大学

6. 笠原一人「南地区センタービルの設計において村野藤吾が目指したもの」、日本建築学会近畿支部、2011 年 9 月 19 日、千里市民センター

〔図書〕(計 5 件)

1. 松隈 洋・石田潤一郎・角田暁治・笠原一人ほか『第 12 回村野藤吾建築設計図展 - 都市を形づくる村野藤吾のファサードデザイン - 』、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、2013 年、p.176

2. 松隈 洋、石田潤一郎、角田暁治、笠原一人ほか『村野藤吾のファサードデザイン』、国書刊行会、2013 年、p.176

3. 大国正美・笠原一人ほか『神戸市謎解き散歩』、KADOKAWA / 中経出版、2013 年、p.287

4. 松隈洋・石田潤一郎・角田暁治・笠原一人ほか、『第 11 回村野藤吾建築設計図展 - 新出資料に見る村野藤吾の世界 - 』、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、2012 年、p.174

5. 笠原一人監修『復刻版 現代建築』、国書

刊行会、2011 年、p.1004

6. 研究組織

(1) 研究代表者

笠原 一人 (KASAHARA KAZUTO)

京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・助教

研究者番号：80303931